

学ぶとは。考えるとは。

## Handai-Asahi 中之島塾

朝日カルチャーセンターとの共同講座。入会金は不要です。大阪大学の第4キャンパス、大阪大学中之島センターで開講します。知識を吸収しながら問題を発見し考察する力も養います。

- 会場／大阪大学中之島センター（大阪市北区中之島4-3-53）
- 定員／各講座により異なります。随時受付中ですのでお問い合わせください。
- 申込先／問合先／朝日カルチャーセンター TEL.06-6222-5224

### ■アンチエイジングはどこまで可能か～若さを保つ秘訣教えます！

森下竜一（大阪大学大学院医学系研究科教授）  
11月2日（土）10:30～12:00  
受講料 1,575円

いったい我々は何歳まで生きられるのでしょうか？世界最長寿の方から考えると120歳までは大丈夫なようです。講座では、大遠慮まで健康に健やかに過ごすためのアンチエイジングのテクニックと一緒に考えます。またアンチエイジングを語る以上はと、講師自ら15kg減量に成功した、低糖質ダイエット、脂肪融解療法、加圧トレーニング、エンダモ、ラジオ波、ケルミン・コエンザイム Q10などのサプリの実例をもとに「臨床自験」についてもお話しします。抗加齢医学は実践のためにあるのです。

### ■日本の男を喰い尽くすタガメ女の正体 ～なぜ心からの幸福感を得られないのか

深尾葉子（大阪大学大学院経済学研究科准教授）  
11月2日（土）14:00～15:30  
受講料 1,575円

サラリーマン家庭を呪縛する「幸福の偽装工作」とは何なのか。高い生活水準にも関わらず平均的日本人の幸せ度が低いのはなぜなのか。安定収入、一戸建て、海外旅行など標準化された幸せのために、ガッチリ男を捕まえ、月1万円の小遣いで夫の収入と社会的リソースを喰い尽くす「タガメ女」と、自分たちは幸せな家族であると思いつまなげ、タガにはめられた思考力を奪われた「カエル男」。しかしタガメ女もまた「ママ友地獄」など共食いとまがみがる見栄の張り合いで心をすり減らして行く。今を生きる男と女はなぜ心にも思苦しいのでしょうか。「女の幸せはこうあるべきだ」のタガにはめられた「魂の植民地化」から脱する方法を一緒に考えましょう。

### ■おもしろ日本語学～国会の会議のこぼれ

小矢野哲夫（大阪大学言語文化研究科教授）  
12月6日（金）13:30～15:00  
受講料 1,575円

国会の本会議をはじめ各種委員会などで使われている日本語の中には、日常生活では耳慣れない表現が使われることがあります。昭和22年6月23日の第1回国会から平成25年の今日まで、約66年。「〇〇まする」のように、もはや使われなくなった言い回しや、「〇〇みたいな」とか「〇〇というふうに思います。」「〇〇すればと思います。」のように、新しく出現した言い方、さらに、「〇〇という形で」「〇〇とところでございます。」のように、次第に増えてきている言い方まで、国会会議録検索システムを使って検証します。

### ■「からだ」と「あたま」の鍛え方 part2 ～私たちは、本当に自分のことをわかっている？

七五三木 聡（大阪大学大学院医学系研究科准教授）  
12月7日（土）、14日（土）10:30～12:00  
受講料 3,150円（全2回）

人生の質を高めるには、自分自身の体と心の性質を理解することが必要です。しかし、私たちはどの程度自分のことをわかっているのでしょうか？実は、わかっているようで本当はわかっていたいなかったということが、最新の脳科学より明らかになってきました。わかっていたいなかったことを認識し直し、なぜそうなのかを理解することで、自分についてだけでなく、他者についても、そして、社会について新しいモノの見方、考え方ができるようにになります。どのように人間同士が理解し合い、つながり合い、共に生きていくべきかという本質的な問題も、新しい視点を持つことで、これまでとは違った解がみえてくるはずですよ。（※リクエスト多数により2011年2月の講義をベースにした内容で再登壇）

### 会社帰りにちよこつと寄り道。ラボカフェ

参加者が自由な議論を行う対話型プログラムです。

- 会場／アートエリア B1（京阪中之島線なにわ橋駅地下1F コンコース）
- 定員／各回により異なります。（当日先着順・入退場自由）
- 問合先／大阪大学コミュニケーションデザイン・センター TEL.06-6850-6632 zenkyo-insoumu@office.osaka-u.ac.jp

### ■シアターカフェ「詩を詠んでみる～ポエトリー・リーディングのススメ」

10月11日（金）19:00～21:00

「詩」は京町屋のようなもの。間口が狭く、奥行きはふかく、慣れないと暮らしづらい。じゃあ、その前に広々としたエンタランスを設けてはどうだろうか？それが「詩を朗読すること」かもしれません。身の回りにあることを声にだしてみようワークショップ。大人も子供もおねえさん。どうぞゆるい気持ちでご参加ください。定員 20 名程度。ゲスト／chori（詩人）、カフェマスター／中谷和代（大阪大学 CSD 特任研究員）、共催／NPO 法人フリンジシアタープロジェクト

### ■中之島哲学コレクション「みんなの哲学2」

10月16日（水）19:00～21:00

哲学カフェでは、日常生活から科学・芸術まで幅広いテーマから毎回1つを選び、その場に集まるみなさんが主役となって議論を楽しみます。今回は1年ぶりに、当日、会場にてテーマを募りたいと思います。「こんなテーマで話してみたい!」という案がある方はぜひご参加ください。定員 50 名程度。進行役／松川絵里（大阪大学 CSCD 特任研究員）、カフェマスター／本間直樹（大阪大学 CSCD 教員）、共催／カフェフィロ

2013年11月以降の予定は随時 HP に掲載。

ラボカフェ CSCD 検索

### 大阪大学が誇る豪華な講師陣が揃い踏み。第45回 大阪大学公開講座

数ある国立大学の中で、初めて総合的な公開講座を開いた大阪大学。つねに社会や人間を考えた「実学」の精神で講義を展開し、今年で45年目となります。

- 会場／大阪大学中之島センター（大阪市北区中之島4-3-53） ●定員／各講座70名（申込先着順） ●受講料／サブテーマBの8講義をすべて受講する場合は7,200円。8講義から選択受講する場合は、1講義1,500円。
- 申込先／問合先／大阪大学公開講座担当 TEL.06-6444-2137 kousya-syagaku-renkei2@office.osaka-u.ac.jp

…… サブテーマ B ……

### 少子高齢化の「現在・未来」

### ■日本の少子高齢化ー小児科医の視点から

大藺恵一（大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所教授）  
10月30日（水）18:30～20:00

日本の少子高齢化は急速に進み、65歳以上の人口比率は30%を超えているのに対して、15歳未満人口は15%以下となっています。出生数は減少を続け、2010年には105万人程度となっています。日本は長寿国として知られていますが、平均寿命の延伸には、新生児死亡率の低下が大きく寄与しています。小児の健康を守る立場から少子高齢化の問題点を提示します。

### ■日本（または大阪）において、少子高齢化・人口減少が引き起こす社会的課題

赤井伸郎（大阪大学国際公共政策研究科教授）  
11月1日（金）18:30～20:00

日本では、今後、少子高齢化が進捗するとともに、人口減少も生じます。これらは、経済活力に加え、日本政府および地方自治体の財政運営（歳入・歳出）にも影響を及ぼします。私たちは、これらの直面する課題に向けて、どのような社会を作っていかなければならないのかを考えます。

### ■大阪弁はいつ大阪弁になったか

金水敏（大阪大学大学院文学研究科教授）  
12月16日（月）13:30～15:00  
受講料 1,575円

前回9月30日の講座「変わりゆく大阪弁」からさらに時代を遡り、大阪弁のルーツに迫ります。「～や」「～ねん」「～へん」「～だす」「おます」等の大阪弁らしさと感じさせる表現は、いつ頃から使われるようになったのでしょうか。この問題を、文学作品や文楽、歌舞伎、漫才等の資料を用いて検証して行きます。この講座を聴けば、時代劇ドラマに出てくる大阪人のしゃべり方が時代に合っているかどうか、分かるようになるかも？

ネットからのお申込みも可。  
Handai-Asahi 中之島塾 検索

### ■ラボカフェスペシャル／鉄道芸術祭関連企画「上方本談、どこまで話す年暮の二」『松岡正剛 × 川崎和男対談「“知”と“ち”が急行する」』

10月16日（水）14:00～16:00

事前申込優先・参加費 1,000円・大学生以下無料＝要学生証提示

2008年の伝説的イベント『連壁 JAPAN DEEP2「浄土に焦がれて、刹那に遊ぶ」』で共演した、知の巨人・松岡正剛と希代のデザイナー・川崎和男による本格対談を決行します。あらゆる未知と既知の世界を編集工学する松岡の「知」と、デザインという「解」において川崎が常用する「いのち・きもち・かたち」の“ち”。その異質であり同質でもある二人の「知」と「ち」について多めに語って頂きます。定員 80 名程度。ゲスト／松岡正剛（編集

### ■ラボカフェスペシャル／鉄道芸術祭関連企画「上方本談、どこまで話す年暮の二」『松岡正剛 × 川崎和男対談「“知”と“ち”が急行する」』

10月23日（水）14:00～16:00

事前申込優先・参加費 1,000円・大学生以下無料＝要学生証提示

2008年の伝説的イベント『連壁 JAPAN DEEP2「浄土に焦がれて、刹那に遊ぶ」』で共演した、知の巨人・松岡正剛と希代のデザイナー・川崎和男による本格対談を決行します。あらゆる未知と既知の世界を編集工学する松岡の「知」と、デザインという「解」において川崎が常用する「いのち・きもち・かたち」の“ち”。その異質であり同質でもある二人の「知」と「ち」について多めに語って頂きます。定員 80 名程度。ゲスト／松岡正剛（編集

### 料理が開く、学問のトビラ。大阪大学×大阪ガス アカデミッククッキング

大阪ガスとの共同講座。知的好奇心を刺激する専門分野の講義の後、講義にちなんだ料理をつくる、従来にない切り口の公開講座です。学問することの面白さを実感していただく試みです。

- 会場／大阪ガススクッキングスクール千里（千里中央駅スグ、せんちゅうPAL1F）
- 申込先／大阪ガススクッキングスクール千里 TEL.06-6871-8561（9:00～17:30 祝・その他指定日除く）または、https://www.og-cookingschool.com
- 申込期間／各講座による
- 講座内容の問合先／大阪大学 21 世紀懐徳堂 TEL.06-6850-6443

### ■多言語社会インドネシア～変わりゆくパリのこぼれ

原真由子（大阪大学言語文化研究科准教授）  
11月20日（水）18:30～21:00（18:30～講義、19:30～料理実習、20:30～試食＋質疑応答）  
受講料 2,000円 定員 24名(15歳以上)

インドネシアではどのくらいの言葉が話されているでしょうか。日本では、方言の違いはあるものの、ほぼ皆が日本語を話すという状態が当たり前ですが、インドネシアは数百もの言語が話されている多言語社会です。たくさの島々と広い領土となる東南アジアの大国インドネシアは、1つの国としてまとまりながら、様々な民族、言語、文化、社会が共存しています。今回の講座では、観光地で有名なバリを事例として、特に言語に焦点をあて、インドネシアの多様性をひも解いてみたいと思います。インドネシア文化が息づくバリ社会で、バリ語とインドネシア語を話すバリ人などの状態をおちこち、「オートファジー（自食作用）」という作用で、自分で自分を食べているだけでなく、古くなった細胞内の「部品」をリサイクルする、侵入してきた病原菌をやっつけるなど、オートファジーは「細胞内消化システム」として、我々の生命を維



### ■こまごま時には自分を食べる？～タコもびっくりオートファジー

吉森保（大阪大学大学院医学系研究科教授／同大学院生命機能研究科教授）  
12月26日（木）18:30～21:00（18:30～講義、19:30～料理実習、20:30～試食＋質疑応答）  
受講料 2,000円 定員 24名(15歳以上)

ほんとううそが知りませんが、タコはいつとなく自分の足を食べているという説があります。人間、いくらかおなかをすけても、自分のからだを食べようなどとはありません。しかし、我々の体の中の細胞は、飢餓状態をおちこち、「オートファジー（自食作用）」という作用で、自分で自分を食べているのです。最近では、単に栄養を補給するだけでなく、古くなった細胞内の「部品」をリサイクルする、侵入してきた病原菌をやっつけるなど、オートファジーは「細胞内消化システム」として、我々の生命を維

### 大阪大学外国語学部・大阪外国語大学の先輩を講師に迎えて。第2回 大阪大学 21世紀懐徳堂・咲耶会公開課外講座

先輩の知識・見識を吸収しませんか。先輩の体験を聞いてみませんか。先輩の失敗談を笑ってみませんか。在学生・卒業生・地域の皆さんの受講を歓迎します！あなたの未来へのヒントがここにあります。

- 会場／豊中キャンパス 基礎工学部・国際棟シグマホールまたは、箕面キャンパス 外国語図書館 AV ホール
- 定員／200名 ●受講料／無料 ●事前申込不要
- 問合先／咲耶会事務局（大阪大学箕面キャンパス）TEL.072-728-2327 sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp

### ■グローバリ化について～個人として、また、企業として

少徳敬雄 10月10日（木）13:00～14:30  
豊中キャンパス 基礎工学部・国際棟シグマホール

個人として、また企業として、グローバル化にどう対峙するかを、特に現役学生諸氏と対話したい。講師略歴：英語学科／1963年卒 咲耶会会長、元パソニック株式会社副社長・海外担当、元 APEC ～アジア太平洋経済協力～ビジネス協議会・日本委員 2006-2008。

### ■東アジアの緊張激化と日本外交の課題

春名幹男 10月24日（木）13:00～14:30  
豊中キャンパス 基礎工学部・国際棟シグマホール

尖閣問題や歴史認識をめぐって東アジアの緊張が高まっている。それに加えて、中国とアメリカの戦略的対立も向こう10年間で重要な段階を迎える。なぜ、何が、問題なのか、深層から考え直してみたい。平和と安全のために、日本は日米中間関係をどのように構築すべきか、についても考察する。講師略歴：ドイツ語学科／1969年卒 早稲田大学大学院客員教授、元共同通信ワシントン支局長、元名古屋大学大学院教授。

咲耶会（さくやい）は、大阪大学外国語学部、大阪外国語大学の同窓会として、会員・教員および在学生との相互連絡・交流および就職を回り、母校の発展に資することを目的として活動しています。

### ■最近の中東情勢（アラブ世界を中心に）

塩尻 宏 11月7日（木）13:00～14:30  
豊中キャンパス 基礎工学部・国際棟シグマホール

2011年1月に始まった中東・北アフリカでの民衆蜂起は、瞬く間にチュニジア、エジプト、リビア、イエメンなどの長期独裁政権を崩壊させたが、シリアでは未だ抗争が続いている。変革期を迎えたアラブ世界の情勢を概観し、今後の行方を展望してみたい。講師略歴：アラビア語学科／1967年卒 公益財団法人 中東調査会・副理事長、元駐リビア大使。

### ■グローバルな視点で伝える～ビルマ語を話すアナウンサーの奮闘記

小川真由 11月14日（木）13:00～14:30  
箕面キャンパス 外国語図書館 AV ホール

転職4回の私のキャリアをご紹介します。最近、外大で学んだ文化人類学や哲学、歴史などを仕事に活かしています。こういうものこそ社会人になってから勉強するのは難しいです。経済は経済学だけでは語れないと最近つくづく感じています。外大出身で本当によかったです。講師略歴：フランス語学科／2000年卒、国際協力銀行、エコノミスト。

### ■現地語を通してこそ見える南アジアの歴史と文化

山根聡 10月17日（木）13:00～14:30  
箕面キャンパス 外国語図書館 AV ホール

現地語習得とその運用は、外国語学部の学生にとって必須の課題であることは言うまでもない。南アジアに関し、英語による情報だけでは全容の理解が困難な場合があり、それを補うためには現地語習得が不可欠である。本講座では、ウルドゥー語を運用することで見えてくる南アジアの諸相を、図版等を用いながら紹介したい。講師略歴：インド・パキスタン語学科／元川崎大学／1986年卒 現大阪大学教授、在パキスタン日本国専門職員、2008年・2013年に日本政府の選挙監視団員としてパキスタンに派遣される。

### ■免疫クロカフェ・教授と秘書の免疫トーク「先生、免疫ってなんですか？」

10月25日（金）18:30～20:30

麻疹などの感染症には二度からないと言われますが、これには免疫記憶という体の機能が関係しています。免疫記憶研究の第一人者である黒崎知博さんが話題提供し、黒崎研究室の文系秘書が「専門的で難しい」説明に質問のメスをいれます。教授 vs 秘書の熱い対話の免疫クロカフェには是非加わってみませんか。定員 30 名程度。ゲスト／黒崎知博（大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授）、ファシリテーター（進行役）／津村明子（大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任助教）、カフェマスター／中尾真美（大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任事務職員）、主催／大阪大学免疫学フロンティア研究センター分画制御研究室

学術研究所長・鉄道芸術祭プロデューサー）、川崎和男（デザインディレクター・大阪大学&名古屋大学名誉教授）、カフェマスター／木ノ下智恵子（大阪大学 CSCD 教員）、申込先／E-mail：fb1.tetsugei@gmail.com

ける科学・技術教育研究拠点（STIPS、大阪大学・京都大学連携プログラム）

受講申込書をダウンロードできます。  
第45回大阪大学公開講座 検索